

1年 単元構想図

「くじらぐも」を劇やペープサートで紹介する活動を通して、登場人物や場面の様子について想像を広げながら読む力と表現する力をつける。

くじらぐもシアターにしたいしよう！(全13時間) 「くじらぐも」

活動内容 (☆本時)

指導内容

六年生が、わくわくするような「くじらぐもシアター」を上演しよう。

第一次 (2)

学習の全体をつかもう。

- ・全文を読み、感想を交流しよう。①
- ・単元のゴールを決め、学習計画を立てよう。①

- ・好きな場面や面白いところを発表させる。
- ・学習を通してつきたい力は何かを明確にしてゴールとなる活動を設定し、学習計画を立てさせる。

第二次 (6)

「くじらぐも」を読み、台本をつくって練習しよう。

- ・登場人物の会話と行動を確認しよう。①
- ・地上①での場面の様子が伝わるように6つの技から選んで劇やペープサートをつくろう。②
- ☆地上②での場面の様子が伝わるように6つの技から選んで劇やペープサートをしよう。①(1-3)
- ☆空での場面の様子が伝わるように6つの技から選んで劇やペープサートをしよう。①(1-2)
- ・空の旅を終えて、別れる場面の様子が伝わるように、6つの技から選んで劇やペープサートをしよう。①

- ・子供達がいる場所をもとに、「地上・空・地上」と全文を大きく3つに分けさせる。その後、初めの地上の場面を「①まねっこ・②ジャンプ」に分けさせる。場面ごとに台本づくりをするという見通しをもたせる。
- ・挿絵や叙述を基に動作させ、内容を掴ませる。
- ・表現方法(劇・ペープサート)を選び劇団を結成させる。
- ・動作化を通して、想像したことを6つの技①声の大きさ②速さ③表情④距離⑤動き⑥台詞を使って表現させる。

第三次 (5)

「くじらぐもシアター」にしたいしよう。

- ☆場面の様子が伝わるように工夫しよう③(1-1)
- ・6年生に「くじらぐも」を上演しよう。①

単元の学習を振り返ろう。①

- ・役割に分かれ、練習をさせる。児童が決めた6つの技を、意識しながら、練習させる。
- ・6年生を招待し、感想を言ってもらい達成感を味わわせる。
- ・想像を広げて読むために使った技とついた力をまとめさせる。

2年 単元構想図

「がまくんとかえるくん」シリーズの作品を音読劇で紹介する活動を通して、登場人物の行動をとらえ、場面の様子について想像を広げながら読む力をつける。

「がまくんとかえるくん」げき場をひらこう（全15時間） 「お手紙」

活動内容（☆本時）

指導内容

第一次(2)

学習の全体をつかもう。

- ・「お手紙」を読み、おおまかな内容をとらえよう。①
- ・単元のゴールを決め、学習計画を立てよう。①

- ・教師が作品を範読し、感想を交流させる。
- ・学習を通してつけたい力は何かを明確にして、最終ゴールを決め、学習計画を立てさせる。

第二次(7)

「お手紙」を読んで、音読劇をしよう。

- ・時、場所、登場人物、会話を確かめ、場面分けをしよう。①
- ・手紙をもらえないがまくんの様子をとらえよう。①
- ☆手紙を書いたかえるくんの様子をとらえよう。①(2-2)
- ・手紙を待つことをあきらめたがまくんと懸命に励ますかえるくんの様子をとらえよう。①
- ☆かえるくんの手紙の内容やそれを知ったときのがまくんの様子をとらえよう。①(2-3)
- ・手紙を待つ二人の様子をとらえよう。①
- ・音読劇を交流しよう。①

- ・時、場所、登場人物、会話を確認し、それらをもとに場面分けをさせる。
- ・動作化を通して、登場人物の行動や様子をつかませる。
- ・グループで音読劇の練習をさせる際には、音読劇の工夫（声の大きさ、読む速さ、間、立つ位置、向き、動きなど）を確認しておき、それぞれのグループで場面の様子に合った音読劇の工夫を考えさせる。
- ・グループごとに「お手紙」の音読劇を発表し、感想を交流させる。

第三次(6)

「がまくん」「かえるくん」が出てくるお話を読んで、音読劇をしよう。

- ・時、場所、登場人物、会話を確かめよう。①
- ・場面の様子が伝わるように音読や動きの工夫を考えよう。①
- ・音読劇の練習をしよう。①
- ☆ペアのグループで音読劇を見合いながら練習しよう。①(2-1)
- ・音読劇をしよう。①
- 単元の学習を振り返ろう。①**

- ・「がまくんとかえるくん」シリーズの中から、演じたい作品を選ばせ、グループで音読劇の練習をさせる。その際、「お手紙」で学習したことを生かしながら、音読劇の工夫を考えさせる。
- ・同じ作品を選んでいるグループ同士で音読劇を見合いながらアドバイスをさせる。
- ・グループごとに他学年に音読劇でお話を紹介させる。
- ・単元を通して付いた力を確認させる。

がまくんとかえるくんの心のふれあいがつたわるような音読げきをしよう。

3年 単元構想図

四コマまんが作りを通して、場面の移り変わりや登場人物の気持ちの変化をとらえる力をつける。

四コマまんがでお話をしようかいしよう（全11時間） 「三年とうげ」

活動内容（☆本時）

指導内容

第一次(3)

学習の全体をつかもう。

- ・「三年とうげ」を読み、読後感を交流し、お話のおおまかな内容をとらえよう。①
- ・単元のゴールを決め、学習計画を立てよう。①
- ・四コマまんがについて知ろう。①

- ・範読を聞いて、読後感を交流させる。
- ・お話のおおまかな内容を引き出させる。
- ・リード文を読み、学習を通してつきたい力は何かを明確にさせる。
- ・最終ゴールを決め、学習計画を立てさせる。
- ・児童になじみのある話の四コマまんがから起承転結の構成をつかませる。

第二次(4)

「三年とうげ」を読んで、四コマまんがにまとめよう。

- ☆物語の組み立てについて考え、「三年とうげ」の設定をつかもう。①(3-2)
- ☆登場人物の気持ちを考えよう。①(3-3)
- ・四コマまんがを作り、「三年とうげ」のおもしろいと思うところを話し合おう。②

- ・時、場所、登場人物をおさえる。
- ・起承転結の4つの構成に合わせて、場面を分け、あらすじをつかませる。
- ・トルトリの話の前後でのおじさんの気持ちの変化をつかませる。
- ・おもしろいと思うところについて理由をつけて話し合わせ、四コマまんがに取り入れさせる。
- ・場面ごとに、おもしろいと思うところを絵と吹き出しや見出しを入れて、四コマまんがにまとめ、交流させる。

第三次(4)

物語を四コマまんがで紹介しよう。

- ☆自分の選んだ民話や昔話を四コマまんがにまとめよう。②(3-1)
- ・四コマまんがをもとに民話や昔話を紹介しよう。①
- 単元の学習を振り返ろう。①

- ・学習したことを生かして、自分が選んだ民話や昔話の場面の移り変わりや登場人物の気持ちの変化を交流しながらまとめさせる。(四コマまんが作り)
- ・「選んだ作品」の四コマまんがを友達に紹介し、交流を通して感じたことをまとめさせる。
- ・単元を通してついた力を確認させる。

色々な民話や昔話をあらすじがはっきり分かる四コマまんがで紹介しよう。

4年 単元構想図

新聞作りを通して、登場人物の行動や気持ちの変化をとらえる力をつける。

新聞記者になって取材し、「ごんぎつね新聞」をつくろう（全13時間）
「ごんぎつね」

活動内容（☆本時）

指導内容

第一次（2）

学習の全体をつかもう。

- ・「ごんぎつね」を読み、おおまかな内容をとらえよう。①
- ・単元のゴールを決め、学習計画を立て、新聞の書き方を知ろう。①

- ・リード文を読み、学習を通してつきたい力は何かを明確につかませる。
- ・範読を聞いて、視点に沿った感想や疑問を書かせる。
- ・最終ゴールを決め、学習計画を立てさせる。
- ・新聞の割り付けや小見出し、字数制限などを知る。

第二次（6）

「ごんぎつね」を読んで、新聞にまとめよう。

- ・物語の状況設定を確かめよう。①
- ・ごんの行動からその時のごんと兵十の気持ちを考えよう。①
- ・ごんの気持ちの変化を考えよう。①
- ・ごんの兵十に対する気持ちがどう行動に表れているか考えよう。①
- ☆加助の言葉でごんと兵十の気持ちがどう変わったか考えよう。①(4-2)
- ☆ごんが撃たれた後のごんと兵十の気持ちの変化を考えよう。①(4-1)

- ・物語の冒頭に書かれている状況設定から、登場人物の性格や状況をおさえさせる。
- ・「ごん」や「兵十」の会話文や行動や状況から、気持ちが直接書かれていなくても想像できることに気付かせる。
- ・「ごん」の心内語に着目させ、気持ちを考えさせる。
- ・「ごん」の視点で書かれている段落と、「兵十」の視点で書かれている段落を押さえ、視点を意識させながら人物の気持ちの変化をとらえさせる。
- ・五感で感じられる情景を表す言葉に着目させ、想像豊かに読ませる。

第三次（5）

「ごんぎつね」新聞を完成させ、交流しよう。

- ・登場人物の行動や気持ちの変化を新聞にまとめよう。③
- ・新聞を交流しよう。①
- 単元の学習を振り返ろう。①

- ・「ごんぎつね」で学習したことを生かして、登場人物の視点を明確にして、行動や気持ちの変化を新聞の記事にまとめさせる。
- ・自分の考えの根拠となる叙述を明確にし、一人一人の感じ方や考え方の違いに気付かせる。

新聞記者になって登場人物の気持ちの変化を取材し、「ごんぎつね新聞」をつくろう。

5年 単元構想図

大造じいさんの生き方を探ることを通して、優れた表現を味わいながら読み、自分の考えをまとめたり、人物の生き方に対して感想を伝え合ったりする力をつける。

大造じいさんの生き方をさぐろう（全10時間） 「大造じいさんとガン」

活動内容（☆本時）

指導内容

第一次(2)

学習の全体をつかもう。

- ・読後感を入れて「大造じいさんへの手紙」を書こう。①
- ・読後感や学習の手引きをもとにして、学習計画を立てよう。①

- ・読後感を入れて「大造じいさんへの手紙」を書かせることで自分の課題を明確にさせる。
- ・リード文を読み、学習を通してつけたい力は何かを明確にさせる。
- ・最終ゴールを決め、読後感や学習の手引きをもとにして、学習計画を立てさせる。

第二次(5)

大造じいさんの心情の変化をとらえよう。

- ・作品の構成と内容の大体をつかもう。①
- ☆なぜ大造じいさんは残雪をうたなかったのか読もう。③(5-2)
- ・なぜ大造じいさんは残雪との話を「愉快な話」として話したのか意見交流しよう。①

- ・情景が大造じいさんの心情とどのように響き合っているかを考えさせる。
- ・大造じいさんの行動やようす、つぶやきから残雪に対する心情の移り変わりを読み深めさせる。
- ・読後感の「大造じいさんに聞いてみたいこと」のなぞを解いていかせる。
- ・グループで出た意見を全体で交流させる。

第三次(3)

大造じいさんの生き方をさぐろう。

- ☆読み深めた大造じいさんの心情をもとに作品の主題について考えよう。①(5-1)
- ・学習した感想を「大造じいさんからの手紙」として書こう。①
- ・大造じいさんの行動や生き方について考えを伝え合い、単元の学習を振り返ろう。①

- ・作品の主題を考えさせる。
- ・初発に書いた「大造じいさんに聞いてみたいこと」に対する答えを、「大造じいさんからの手紙」を書かせることで、自分の読みを確かめさせる。
- ・「自分が考えるすぐれた表現とその理由」作品に対する「自分の思いや考え」を書かせる。
- ・本単元の学習を通して「自分について力」をまとめさせる。

大造じいさんの生き方について、自分たちの考えを伝え合おう。

6年 単元構想図

宮沢賢治の生き方と作品を関連させて読むことを通して、優れた表現を味わい、自分なりの思いや考えをもつ力をつける。

「宮沢賢治」をリサーチしよう(全14時間) 「イーハトーヴの夢」「やまなし」

活動内容 (☆本時)

指導内容

第一次(4)

学習の全体をつかもう。

- ・「やまなし」の範読を聞き、不思議や疑問を出し合おう。①
- ・「イーハトーヴの夢」を読んで宮沢賢治の生き方を知ろう。②
- ・つけたい力をつかみ、学習計画を立てよう。①

- ・リード文を読み、学習を通してつけたい力は何かを明確にさせる。
- ・範読を聞き、初読の感想や疑問、不思議を交流させる。最終ゴールを決め、学習計画を立てさせる。
- ・賢治の一生を年表にまとめさせる。
- ・「イーハトーヴの夢」を読んで、賢治の生き方をつかませる。

第二次(6)

「宮沢賢治」をリサーチしよう。

- ・「雪わたり」「よだかの星」を読み、「イーハトーヴの夢」に通じる所を探そう。②
- ・「やまなし」を「5月」「12月」に分かれてかへの会話や様子、水や光の様子等読み深め、班で交流しよう。②
- ☆なぜ「やまなし」という題にしたのか、それぞれの月のイメージを出し合い、交流しよう。①(6-1,2)
- ・交流した内容をリサーチ本にまとめよう。①

- ・賢治の生き方を捉えさせるために2作品を分かれて読み比べさせる。それぞれの作品に流れている賢治の生き方を班に戻り、交流させる。
- ・自分達の読みと「イーハトーヴの夢」のつながりをリサーチ本にまとめさせる。
- ・教材文「やまなし」を5月・12月に分かれて読み進めさせる。
- ・情景を表す言葉に着目させたり、賢治の世界観が分かる叙述に立ち止まらせたりして自分が感じたことをリサーチ本に絵や文章でまとめさせる。
- ・5月のイメージと12月のイメージが「やまなし」という題にどう影響しているのか考えさせる。
- ・感じたことや分かったことをリサーチ本にまとめさせる。

第三次(4)

「リサーチ本」を完成させ、中学生に見てもらおう。

- ・賢治が作品を通して伝えたかったことをリサーチ本に書いて完成させよう。②
- ・リサーチ本を城北中学校の図書室へ置き、中学生に読んでもらおう。①
- 単元の学習を振り返ろう。①

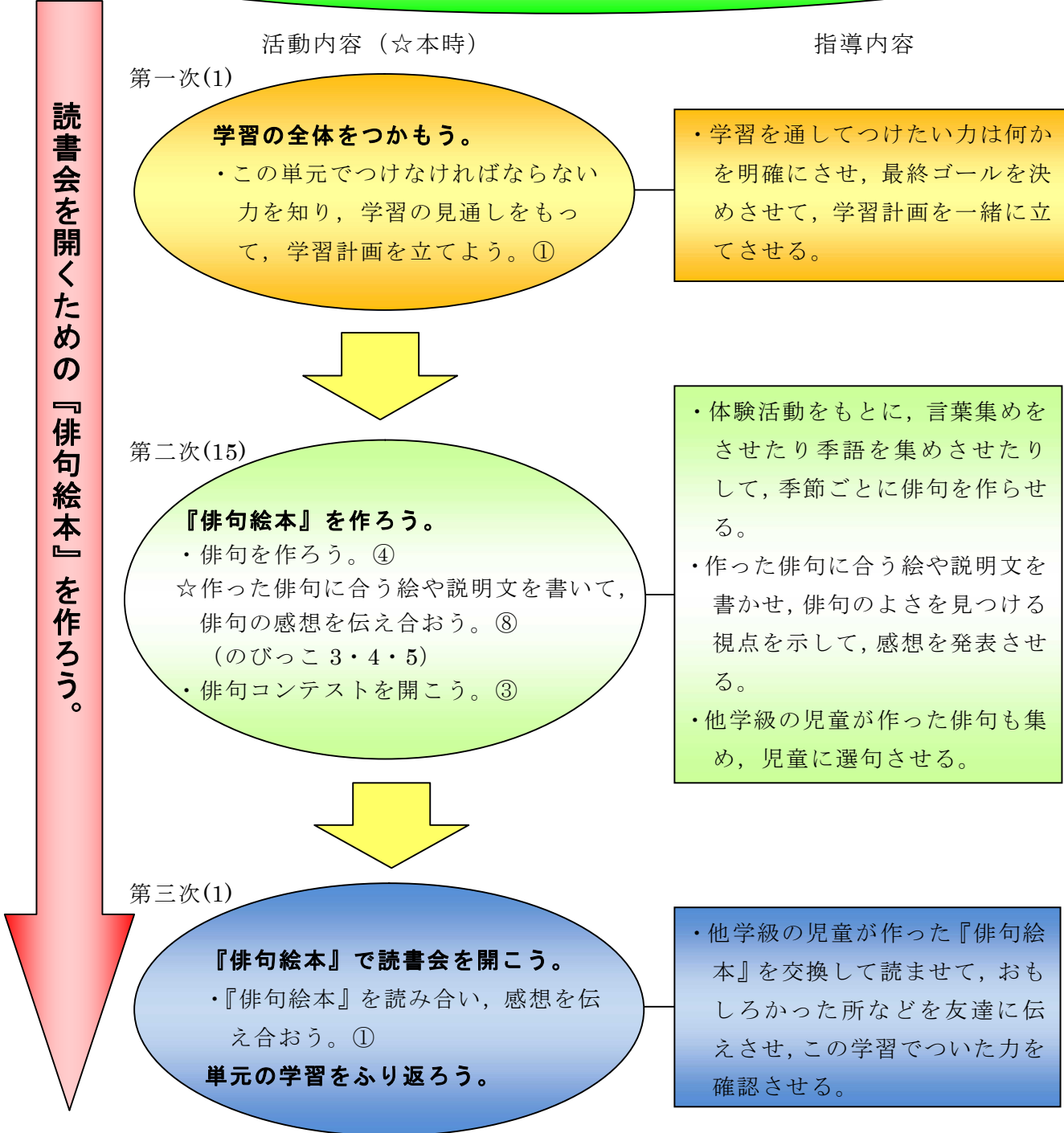
- ・賢治リサーチ本を交流させる。
- ・朝読で読み進めている賢治の他の作品も「やまなし」と比べさせ、賢治は作品を通してどんなことを伝えたかったか感想を書き、リサーチ本を完成させる。
- ・最終ゴール「城北中学校の図書室に置き、中学生に感想をもらおう」のために、中学校へ持って行かせる。
- ・単元全体を振り返る。ついた力を確認させる。

宮沢賢治をリサーチし、「リサーチ本」を完成させよう。

自閉症・情緒障害特別支援学級 単元構想図

俳句に合う絵や説明文の交流を通して、
 1・2年生 自分の思いや考えを発表する力をつける。
 3・4年生 自分の考えを発表し、一人一人の感じ方の違いに気付く力をつける。
 5・6年生 自分の考えを発表し合い、考えを広げたり深めたりする力をつける。

ぼくたち・わたしたち 俳句探検隊（全 17 時間） ～ 『俳句絵本』を作ろう～



知的障害特別支援学級 単元構想図

俳句に合う絵や説明文の交流を通して、
 のびっこ1A のびっこ2A・B・D 文字などに興味をもち、読もうとする力をつける。
 のびっこ1B・C・D のびっこ2C・G 簡単な語句や短い文などを正しく読む力をつける。
 のびっこ1E・F・G のびっこ2E・F・H 自分の思いや考えを発表する力をつける。

ぼくたち・わたしたち 俳句探検隊（全 17 時間） ～ 『俳句絵本』を作ろう ～

